

### 確定拠出年金専用ファンドの動向(2015年9月)

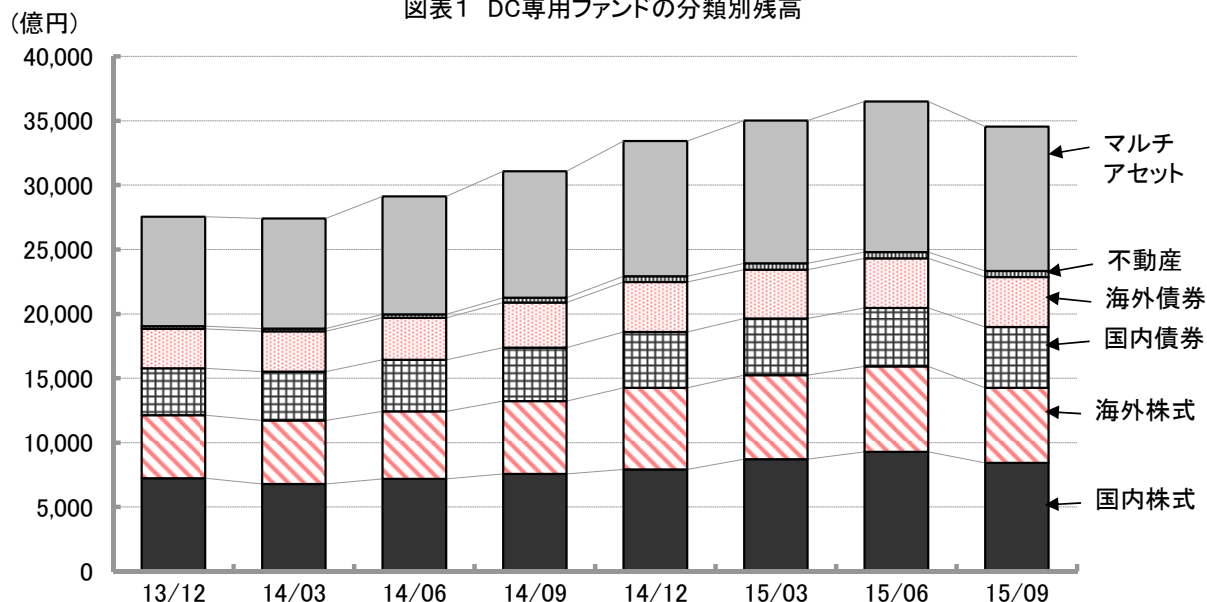
2015年度第2四半期の確定拠出年金専用ファンドの残高は前の四半期に比べ1,965億円減少し、3兆4,538億円になりました。収益率をみると国内株式型や海外株式型では▲12～▲13%と大きく下落しました。また、不動産型も▲5.5%と前の四半期に引き続き低迷しています。資金流入をみると国内株式型やマルチアセット型、国内債券型などを中心に比較的多額の資金が流入しました。その一方で海外株式型への資金流入は12億円に過ぎず、前期に引き続き資金流入は少額に留まっています。

#### 確定拠出年金専用ファンドの残高

2015年度第2四半期(7月～9月)の確定拠出年金(以下、DC)専用投信<sup>1</sup>の残高は前四半期に

比べ1,965億円減少し、3兆4,538億円になりました。残高の減少は6四半期ぶりで、四半期の減少額としては過去最高となりました(図表1)。

図表1 DC専用ファンドの分類別残高



出所)野村総合研究所

<sup>1</sup> DCにおける投信残高の凡そ9割は、DCだけのために特別に設定されたDC専用ファンドといわれています。

#### 野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されましたお客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送等を行わないようお願い致します。

ファンド分類別にみると、国内株式型と海外株式型はそれぞれ800億円以上残高が減少しています(図表2)。また、マルチアセット型でも500億円近く残高が減少しています。DC専用ファンド全体の残高が過去最高の減少額を記録しているにもかかわらず、残高が増加した分類もあります。それは国内債券型と海外債券型で、残高はそれぞれ186億円、166億円増加しています。

分類別残高構成をみてみると、マルチアセット型の割合が最も高く、全体の32.4%を占めています。2番目に残高の多い国内株式型は24.4%ですので、上位2タイプだけで全体の56.9%を占めていることとなります。

次に、株式型ファンドと債券型ファンドという切り口で残高をみてみましょう。株式型(国内株式型と海外株式型)と債券型(国内債券型と海外債券型)の残高割合はそれぞれ41.3%、24.9%とな

り、前の四半期に比べて、前者は2.3%減少し、後者は1.9%増加しています。

また、国内資産(国内株式型と国内債券型)を中心に運用するファンドと海外資産(海外株式型と海外債券型)を中心に運用するファンドに分けてみると、国内資産を中心に運用するファンドの残高割合は、38.1%であり、前四半期から0.2%増えています。逆に海外資産を中心に運用するファンドは前四半期から0.6%減少し、28.0%になっています。

さらに、株式ファンド(国内株式型と海外株式型)と債券ファンド(国内債券型と海外債券型)を対象にアクティブ型とパッシブ型に分けてみると、パッシブファンドの残高割合は、74.6%となり、ほぼ4分の3を占めています。

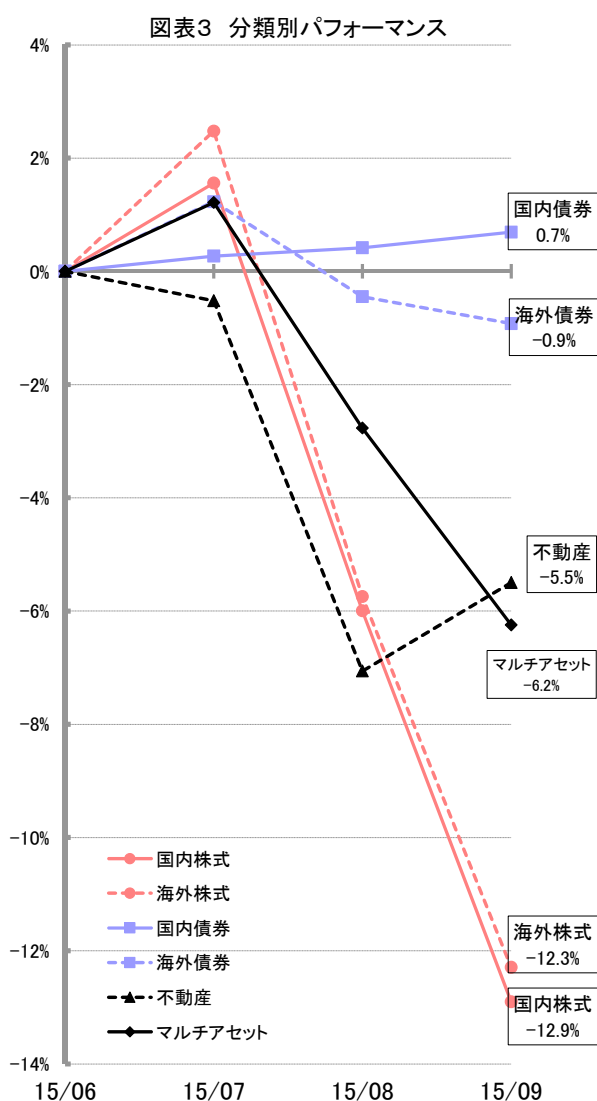
図表2 DC専用ファンドの分類別残高(億円)

	13/12	14/03	14/06	14/09	14/12	15/03	15/06	15/09
国内株式	7,231	6,788	7,190	7,573	7,918	8,722	9,295	8,437
アクティブ運用	2,863	2,666	2,822	2,969	3,082	3,350	3,563	3,189
パッシブ運用	4,367	4,122	4,368	4,604	4,836	5,372	5,732	5,248
海外株式	4,913	4,947	5,255	5,665	6,344	6,528	6,626	5,825
アクティブ運用	1,262	1,256	1,316	1,379	1,531	1,583	1,578	1,385
パッシブ運用	3,651	3,691	3,939	4,286	4,814	4,945	5,048	4,440
国内債券	3,635	3,776	3,995	4,153	4,347	4,397	4,548	4,734
アクティブ運用	580	600	619	643	674	681	691	712
パッシブ運用	3,055	3,176	3,375	3,510	3,673	3,716	3,856	4,022
海外債券	3,053	3,125	3,245	3,505	3,866	3,784	3,839	3,857
アクティブ運用	429	438	448	480	526	519	518	517
パッシブ運用	2,624	2,687	2,797	3,025	3,340	3,266	3,321	3,340
不動産	225	229	287	355	451	498	504	482
マルチアセット	8,496	8,551	9,150	9,839	10,512	11,093	11,691	11,203
バランス型	8,239	8,242	8,747	9,251	9,826	10,328	10,852	10,334
ターゲットイヤー型	132	133	142	151	162	183	193	193
アセットアロケーション型	125	176	262	437	524	582	645	676
残高合計	27,552	27,418	29,121	31,090	33,439	35,023	36,503	34,538
残高割合								
国内株式	26.2%	24.8%	24.7%	24.4%	23.7%	24.9%	25.5%	24.4%
海外株式	17.8%	18.0%	18.0%	18.2%	19.0%	18.6%	18.2%	16.9%
国内債券	13.2%	13.8%	13.7%	13.4%	13.0%	12.6%	12.5%	13.7%
海外債券	11.1%	11.4%	11.1%	11.3%	11.6%	10.8%	10.5%	11.2%
不動産	0.8%	0.8%	1.0%	1.1%	1.3%	1.4%	1.4%	1.4%
マルチアセット	30.8%	31.2%	31.4%	31.6%	31.4%	31.7%	32.0%	32.4%

出所)野村総合研究所

#### 野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されましたお客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送を行わないようお願い致します。



出所)野村総合研究所

### 分類別パフォーマンスの推移

図表3は2015年度第2四半期中におけるファンド分類別累積投資収益率の推移です。6月に調整した国内外の株式相場は、7月にいったん堅調に推移しましたが、8月に入ると人民元の切り下げをきっかけに中国の景気減速に注目が集まり、再び下落し、四半期の収益率は国内株式型で▲12.9%、海外株式型で▲12.3%となりました。また株式を組み込んだマルチアセット型も▲6.2%と低迷しています。6月以降下落していた不動産投信の相場は9月によりやく反転しましたが、不動産型の四半期のパフォーマンスは▲5.5%となりました。

ドルやユーロ安も進みましたが対円で2円程度下落に留まったため、海外債券型の四半期のパフォーマンスは▲0.9%と、大きな下落に至りませんでした。

大分類の中では唯一収益率がプラスとなったのは国内債券型で、グラフの通り安定的に推移しました。

### 分類別資金純流入額の推移

図表4は、2014年度第2四半期から当四半期までのファンド分類別の純流入額(設定額-解約額)の推移を表したものです。

図表4 DC専用ファンドの分類別資金純流入額(億円)

	14/07~ 14/09	14/10~ 14/12	15/01~ 15/03	15/04~ 15/06	15/07~ 15/09
国内株式	-63	-107	31	54	367
海外株式	104	-11	93	14	12
国内債券	138	109	73	161	154
海外債券	89	31	35	47	53
不動産	52	37	47	24	6
マルチアセット	352	99	256	385	249
資金純流入合計	672	158	535	685	841

出所)野村総合研究所

### 野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されましたお客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送を行わないようお願い致します。

当四半期の純流入額は前年度の第2四半期に比べ<sup>2</sup>、169億円多い841億円となりました。特に9月の資金流入は多く、退職給付制度の過去の資産移管が多く行われる毎年6月を除くと過去最大となりました。

四半期の資金流入額を分類別にみると、国内株式型への流入が367億円と最も多くなっています。この額は同分類への資金流入としては過去最大で、特にパッシブ型への資金流入が多かったようです。国内株式型に次ぐのが、マルチアセ

ット型で、250億円近い資金が流入しています。また国内債券型への資金流入も154億円と、同分類としては比較的多額の資金が流入しています。一方、資金流入が少なかったのは海外株式型で、12億円に留まりました。これは前年同期の1割程度に過ぎません。国内株式型と海外株式型の収益率は共に12%以上のマイナスとなったにも関わらず、資金流入では両者は対照的な結果となりました。

弊誌の記事はバックナンバーも含めてホームページでご覧頂けます。当ホームページは、年金スポンサー限定のサービスとなっております。ご利用を希望される方は、次のURLにてご登録をお願い致します。

<http://nenkin.nomura.co.jp>

**編集:** 野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター、野村資本市場研究所、野村総合研究所

**発行:** 野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター(年金マネジメント研究会事務局)

〒100-8130 東京都千代田区大手町2-2-2  
アーバンネット大手町ビル

**TEL:** 03 (6703) 3991

**FAX:** 03 (6703) 3981

**Email:** [nenkin@jp.nomura.com](mailto:nenkin@jp.nomura.com)

— 次号のお知らせ —

次号は

**11月9日(月)**

発行予定です。

<sup>2</sup> 資金流入額には季節性があると考えられるため、前年同期と比較しています。

#### 野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されましたお客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送等を行わないようお願い致します。

## 野村証券からのお知らせ

当社で取り扱う商品等へのご投資には、各商品等に所定の手数料等(国内株式取引の場合は約定代金に対して最大1.404%(税込み)(20万円以下の場合は、2,808円(税込み))の売買手数料、投資信託の場合は銘柄ごとに設定された購入時手数料(換金時手数料)および運用管理費用(信託報酬)等の諸経費、等)をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失が生じるおそれがあります。商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

野村証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第142号

加入協会／日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会